

第4回大田区文化芸術推進協議会 議事要旨

1 開会

日時 令和7年8月8日(金) 9時30分から正午まで

場所 大田区役所2階 201会議室、202会議室

委員出欠

出席(1)委員11名

(2)事務局 文化芸術推進課3名、地域力推進課1名

欠席 委員1名

2 現行プランの評価について

副会長 現行プランの評価は次期プラン策定にとっても重要だ。

会長 評価の内容は具体的でいいと思う。一方、できていない取組は漠然とした印象だ。

C 委員 評価の資料に数字(%)が出てくるので、次期プランの評価方法について質問したい。数値目標を定めてそれに対する達成度を評価するのか。事業活動を共にした人たちの声をもとに評価するのか、単純に●%アップ、のような目標は、毎年アップし続けるにも限界があり、実効性のない評価になってしまうのではないか。

事務局 次期プランの評価の在り方については検討中で、次回の協議会で議題としたい。

C 委員 現行プランの評価のなかで、具体的な数字で(変化が)示されているところと、「減少」等と書かれているところがあり、表現がまちまちなのが若干わかりにくい。

D 委員 評価の方法と対象について明確に知りたい。

E 委員 文化芸術活動団体同士がつながる機会、団体同士の交流に力を入れていくといい。

L 委員 こどもたちに大田区には本当にすばらしい文化があると、早い段階で知ってもらう、体験してもらえるといい。コロナ禍の影響で学校ではタブレット化が進んだ。このタブレットを通じた広報・お知らせができるといいのでは。
現行プランの評価を土台にして、文化が届いていない層に何をどう届けるか、考えていくとよい。

H 委員 こども、障害者、外国籍の方を含めて裾野を広げていくことが大切だ。

会長 委員のみなさま、「文化芸術活動団体同士がつながるための機会」「こどもが鑑賞・活動できる機会」はまだ十分でない、という認識でよろしいですかね。

G 委員 (文化芸術事業を運営する側として)こどもが鑑賞できる機会を設けてきているので、評価されていないのが少し意外だ。満足度、成果の捉え方は難しい。文化は触媒のようなもの。数値目標にとらわれず、どのように成果を評価できるか模索している。文化をたのしむ環境作りが大切だ。

会長 (文化芸術事業を)行っているのに区民に届いていないのかもしれない、十分に評価されていないのかもしれない。現場も行政も、ニーズに対して真剣に取り組んでいると思う。以前から議論しているが、情報が十分に伝わっていないのではないか。この点は次期プランで強化していくところになるかもしれない。

J 委員 めざすべき方向と実践が適合しているのかという観点で評価することは重要。特に時代背景を捉えて方向を定める必要がある。働き世代・こどもへのアプローチ、情報発信への課題もある。因果関係を把握することは難しいため、相関関係の見えにくいものについて本日の協議会で仮説でもヒントでももらえると有難い。

副会長 区民の状況を把握するだけでなく、第3次計画に基づき行政が実施してきた施策ができたのか否かを評価してほしい。コロナ禍で、活動が減少した社会情勢のなかで、行政として何ができたのか、オンライン化して取り組んだこと等、社会背景にあるエピソードも含めてちゃんと評価することが大切だ。受け取る側の区民に届いているか否かも大切だが、非常に苦しい社会状況のなかで行政が計画に基づいてやってきたことを、もう少し明確に書けないだろうか。すると、新たに課題として見えてくることもあると思う。

会長 数字の裏にあることを書いておくことが大切。コロナ禍のなか、区や協会、博物館・記念館でやってきたことをしっかり書いてほしい。

3 次期大田区文化振興プランの素案について

(1)施策1について

C 委員 まちの将来像は、「暮らしていく上で、生きていく上で、心を支える文化がまちのいたるところにある」「文化は生きていくうえで不可欠」という認識のもと、これまでの協議会で議論してきた。なぜその将来像を目指すのか、説明を入れてほしい。全体的に区民が受動的に見える。「区民が主体的にいきいきと活動することを区は応援する」という施策が書かれているとよい。

D 委員 区民がやりたいことを区が支援して発信する、広げる取組があるといい。表現が固いと感じる、もっと柔らかくしてもいいのでは。

E 委員 文化は日々生きていく中であって、生活に根付いているものだと思う。地道な活動、小さな芽、目立っていない人のことも拾ってほしい、本来の文化はそこにあるのではと思う。計画ではわかりやすい表現、表記をしてほしい。

F 委員 絵やイラストを活用してわかりやすくしてほしい。

L 委員 区民が生活しているなかに文化があるといい。区は、区だけじゃなく民間をうまく取り込んでほしい。

H 委員 まちの将来像については、コロナ禍における文化芸術を振り返ってほしい。文化は人間が人間たるゆえん、不可欠なものというイメージを表現できるといい。

G 委員 雑多なところが大田区の魅力なのではないか。蒲田の映画文化など、じぶんたちが持っている文化資源を使っていくといい。馬込文士村の成り立ちのように、区にいるアーティストが他の所からアーティストを呼んでくるようなしかけが面白いのでは。

K 委員 区民の主体的な活動の支援を入れるといい。

J 委員 本日の資料で示された「まちの将来像」は、区の上位計画である基本構想を踏まえたものだが、もう少し練ってもいいと思う。主体性・創造性を支える視点(しかけ)が必要だ。区は古くから培ってきた文化資源を持っている。いかに生かすかが重要。

会長 各施策が縦割りではなく連携して関わることによって全体が改善されていく、エコシ

ステムで施策を作っていく必要がある。

副会長 施策1－3は、「区ゆかりの芸術家」だけではなく、「文化団体に」も加えてはどうか。

(2)施策2について

C 委員 文化施設が中心の施策で、区民の活動と遠い印象。文化資源の保存・継承・活用を専門家のみで行うように見える。「区民の活動をサポートする」施策を新たに追加してもいいのでは。

大田区の文化資源を区民が具体的にイメージできるように見える化することが大切なのではないかな。

D 委員 区民発のやりたいことへのサポートが書かれていないと感じた。文化資源を見える化することで、逆に対象が限定されてしまわないか。

会長 (区が文化芸術施策の対象を)定義することで限定されてしまうこともあるので、文化芸術を定義しない方法もある。ただ漠としてしまうデメリットもあるが。

E 委員 伝統文化の継承は大切、なくすことは簡単だ。どうしたら時代に合った方法で継承できるか考えている。

会長 (伝統文化の継承に)どう行政が関与していけるか、国も危機感を持っている。ここが行政の頑張り所ではないか。

F 委員 文化芸術、文化資源とあって、わかりにくい。伝統文化は進化していくもので創造性に繋がる。

会長 文化って変わっていくものだから、進化していくというのはその通りだ。人間がやっていることだから、無形文化はとくに変わっていくことを前提として引き継いでいくことが大切だ。

L 委員 OTAふれあいフェスタは文化をお披露目する場。

H 委員 例えば「羽田節」は、地域にある小学校の運動会でやるので継承されている。地域全体で伝統文化を伝えていこうという動きをしている。文化のデジタルアーカイブ化は

地域ではできない。行政が主体となってやっていくことだ。

会長 （文化が）消滅していくことを前提として何ができるか考えることも大切。聞き取りして記録を残すなど。

副会長 施策の対象が伝統文化だけではよくない。新しく生まれる文化も大切だ。単にあるものを保存するだけではなく、文化資源を作っていくニュアンスも含めていいのでは。

(3)施策3について

C 委員 「地域のつながり」というより「人と人のつながり、人々のつながり」なのではないか。（素案の中に出てくる）「インタラクティブ」という言葉は古いのでは。双方向のもっと先、区と区民の双方向だけではなく、区民同士が自由につながり合っていく網の目状のつながりが重要。人々が情報を発信・交信して互いにつながるイメージ。

D 委員 文化施設以外にも、文化事業を企画することができる。人と人のつながりが全体を作り出すのでは。

E 委員 各ジャンルが頑張りつつ、ジャンルを超えたつながりが立ち上がると面白い。

会長 縦割りじゃなくて、それぞれが交流できると面白い。環境整備を考えた時、行政はもう箱ものを十分作ってきたのだから、これからは交流できるような場を作っていくといい。

F 委員 文化を通じて地域が活性化していく、まちづくりという言葉が入ったことは地域としては好意的に受け止めている。

G 委員 大田区らしさは蒲田に代表される雑多なものがある雰囲気だと思う。

K 委員 異業種交流は大切だ。

J 委員 文化芸術の振興は、地域の未来を創造していく上で核となるものであり、自由に入りできる、コーディネート機能も含めたプラットフォームがあるといい。プロモーションの対象は交流人口も対象と考えるべきであり、アートツーリズムやバックステージツアーなど多様な手法を検討するとともに、情報は行政発信のものにとどまらず

多様な主体からいかに展開できるかが重要。

副会長 地域のつながりは、人と人のつながりを意味するのは自明だが、言葉を整理してもいいかもしれない。大田区らしさは、いろんな顔を持つ地域があるということだと思う。施策3-1で、普段の日常生活、仕事では触れ合うことがないような人同士が文化を通じて触れ合い、相互理解していくと、コミュニティが活性化していく。そこをきちんと施策として書いた方がいいと思う。

(4)施策4について

C 委員 文化芸術は単体で振興するものではない、というのはよい。しかし、文化芸術基本法にその根拠があるという書きぶりは、いかにも主体性がない。区民には遠い話に聞こえる。大田区として、領域横断が得意な文化や芸術の特性をいかして総合政策としての文化施策に取り組んでいくという表現がよいのでは。そのために、施策3に布石として、ネットワーク、交流の場づくり、領域横断の地域づくりなどが書かれていると、施策4に繋がっていく。

すべての分野に文化芸術が横ぐしをさす形を示す。

D 委員 横ぐし、いいですね。文化芸術単体じゃなくて全部がつながっていく。

F 委員 区民がやっている文化芸術活動に寄り添っていくことが大切だ。計画であるなら、「未来」「こども」といったキーワードが出てきてほしい。

L 委員 心豊か、って一人ひとり違う。新しいジャンルに出会うことで、また豊かさが生まれる。他ジャンルとの交流が大切だ。

H 委員 文化芸術によって心の安定、充足感がもたらされるという表現もいいが、もっと深い場所でのつながり、この世で生きていく価値、ぐらいまで踏みこんでもいいのでは。

G 委員 他分野と文化資源を活用というが、コーヒーショップで写真展を行うなど、文化資源が触媒となっている事業がある。

K 委員 施策4の連携事例は書き方に工夫がいる。

副会長 文化芸術は単体で振興するものではない、という施策は文化芸術基本法にその根拠がある。さまざまな分野の社会課題解決に文化資源を活用するという文章の主語は区でもいいと思うが、庁内の他部局に根拠を示す意味で、法を主語にしてもいい。法的な根拠を注釈で示すでもいいし、方法はいろいろある。連携事業例のなかには、病院でアートに触れたとか、福祉事務所に相談に行ったら文化事業の情報に触れることができた、など、区民目線で事例の例示があるといいのではないか。

J 委員 総合政策として捉える必要がある。8年先の将来像を想像し、単に商業やにぎわいではなく、文化芸術の価値を損なうことのないよう配慮しつつ、基礎自治体としてふさわしい取組をつなげていくことが望ましい。

4 その他

事務局 本日晒した素案のなかには入っていないが、区の実施計画に記載のある「文化創造事業の創出」という施策を庁内で検討している。次回までに庁内調整の上、議題としたい。また、次期プランのデザイン委託事業者がプロポーザルで決定した。次回の協議会で事業者も同席し、デザインイメージを共有したい。

5 事務局からの事務連絡

・次回の開催日時について

6 閉会